

## 9. 子どもに交通ルールを教えていきましょう。

信号の変わり際に横断歩道を渡って車と接触したり、ボールを追って道路に飛び出しひかれてしまったり。子どもは遊びに夢中になってしまうと、周囲に注意を払うことがなかなかうまくできません。

道路を歩くときは手をつなぎ、大人は車道側を歩くようにしましょう。

三輪車は車が通らないところで乗ることや、道路に飛び出しをしないなど、交通ルールを教えていきましょう。



## 10. ストープやヒーターは子どもが触れないようにする。

冬は暖房器具によるやけどが多くなります。ヒーターの噴出し口に指をつけたり、転んでストーブにふれてしまったりします。子どもの皮膚は大変弱く、ほんの少しの熱でも重症なやけどを負う危険があります。



熱源が直接触れないように、ガードをして使用しましょう。ストーブの上にやかんは置かないようにしましょう。

## 11. 熱いお茶、味噌汁、カップラーメンなど子どもが熱い物に触れないようにしましょう。

台所は子どもにとって危険な場所のひとつです。ちょっと目を離れたときにガス台から下ろしたばかりのやかんや熱い鍋に触ってしまったり、足元にいる子どもに熱いスープや油をかけてひどいやけどを負わせてしまったり、テーブルの上のカップラーメンをひっくり返してしまう事故があります。



熱い食べ物や飲み物はテーブルの中央に置きましょう。

アイロンは使用時だけでなく、温度を冷ますときも手の届かないところに置いて冷ましてみましょう。

## 12. 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かない所に置きましょう。

子どもは大人のまねをしたがり、引き出しに入っている薬も取り出して誤飲してしまいます。好奇心が強く、トイレ用洗剤、カビ取り剤、漂白剤などを無造作に置いておくと誤飲する危険があります。誤飲の場合、吐かせていいものと悪いものがあるので、まず何を飲み込んだのか落ち着いて判断することが必要です。



医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かないところに置きましょう。

手が届く引き出しは開けることができないようにロックをしておきましょう。

薬は不要になったら捨て、薬入れにお菓子の空き缶などは使用しない。

## 13. 子どもが鼻や耳に小物を入れて遊ばせない。

子どもはビーズやプラスチックの玉、小さなブロックやお菓子などを面白半分で鼻や耳に詰めて遊ぶことがあります。異物が詰まって取れなくなり、思わぬ事故に至ることもあるので注意が必要です。特に鼻から入ったものは長時間そのままにしておくと鼻の中の粘膜に炎症を引き起こします。

鼻や耳の中に物を入れてはいけないことを教えましょう。



## 14. あめ、お餅などをあげるとき、喉に詰まらせないように注意する。

あめを喉に詰まらせたり、食べ物が大きすぎて飲み込めず、喉につかえることがあります。子どもの喉はまだ未発達なので、気管に物が入りやすく、落ち着いて食べないと窒息事故は起こっています。

食べ物は硬さ大きさ、口の中に入れる量を考えて食べさせましょう。



## 15. 子どもだけで川や池に遊びに行かせない。

外で友達同士で遊ぶことが多くなるので、住まいの近くの池や川、用水路、浄化槽や防火槽など子どもが落ちる危険がある場所がないか確認しておきましょう。浅瀬でも流れがある所では、バランスを崩して転ぶと簡単に立ち上がられません。

川や池、用水路などに一人で近づいては危険なことを教えましょう。



## 16. 水遊びをするときは必ず大人が付き添いましょう。

水遊びは子どもを解放的な気分させる遊びですが、子どもはわずかな水深でも溺れてしまいます。浅瀬だから、庭のビニールプールだからと安心して目を放すと大変危険です。

水遊びをするときは必ず大人が付き添いましょう。ビニールプールは遊んだ後は水を流し、伏せておきましょう。



## 17. かみそり、包丁、はさみなどの刃物は使用したら必ず片付け、取り出せないように引き出しにはロックをしておく。

まな板の上に置いてあった包丁を取ろうとして足の上に落ちてしまったり、洗面台のかみそりを握ってしまったり、子どもは大人が使っている物に興味を持ち、真似をして自分でも使ってみようとしています。

まだまだ大人が見ていない時に刃物を使用するのは危険です。刃物を使用したらすぐ収納場所に片付ける習慣をつけておきましょう。

